

秋季特別展

# 『日光東照宮と秋元三代』開催中

谷村藩二代藩主の秋元富朝は、諏訪明神(現富士吉田市)の森に松の植林を命じたり、日光山の火番(防火責任者)や甲州に配流された良純法親王の監守などをつとめています。しかし明暦三年(一六五七)四十八歳の若さで没し、谷村泰安寺に葬られました。

富朝の跡を継いだ喬知は、戸田家から祖父富朝(喬知の母は富朝の娘)のもとに養子に入り、八歳で家督を継ぎました。その後、奏者番、寺社奉行、若年寄と出世を重ね、元禄十二年(一六九九)には老中になり、幕府の首脳として国政に参画しました。そのため喬知は秋元家歴史の中で、「中興の祖」であるとされています。

秋元家に代々伝わる名品や、秋元時代の谷村城下町を再現した「谷村城下町復元図」、秋元家の統治に関する文書などから、江戸時代の初め、城下町として栄えていたころの谷村の様子を感じ取っていただければ幸いです。



「谷村城下町復元図」宝永元年(1704)頃

会期	10月28日(日)まで
開館時間	午前9時〜午後4時30分 (入館は4時まで)
休館日	10月1・9・15・16・22日
観覧料	一般 600円(420円) 高校・大学生 400円(280円) 小・中学生 200円(140円)
( )内は20名以上の団体料金	

ミュージアムトーク

毎週日曜日午前10時から展示品について当館学芸員が解説いたします。

関連イベント

10月14日(日)  
城下町ウォッチング  
午後1時30分〜

10月28日(日)  
再現「茶壺口切り」  
午後1時30分〜

創作「谷村城下町物語り」  
午後3時〜

次回企画展のお知らせ

「甲州俳諧展」

「甲州に逃れた俳人たち」

11月3日(日)〜

12月24日(月)

松尾芭蕉の谷村逗留後の甲州俳諧の進展について、山口黒露とその周辺の人々の活動を中心に紹介します。

**募集・問合せ先**  
都留市博物館  
「ミュージアム都留」  
☎(45)80008  
☎(45)86008

ミュージアム都留寺子屋講座より

第二回芭蕉月待講座「甲州に逃れた俳人たち」の要旨をご紹介します。

「敬雨・蘭舟——甲州に新しい血を——」

正徳五年(一七一五)、岸本調和が他界すると、それまで調和一色だった甲州俳壇のなかで、その影響から抜け出そうとする動きがでてきます。享保二年(一七一七)に出された「甲陽選述いなふね」は、江戸の俳人浮生の門弟で、若くして他界した吹噓を悼んで編集されたものであり、甲州俳人のそうした動きをあらわす最初の例といえます。

さらに享保九年(一七二四)、当時の俳壇の第一人者で「法師風」という俳風を興した敬雨(稲津祇空)が甲州を訪れます。調和の門弟で、甲府の旅館「大津屋」の主人でもあった鈴木調唯は、その折の句会に出席し、「壺當軒壺中軒日記」にそのときの様子を記しています。

敬雨の来訪は、甲州の俳人たちにとって、新しい俳風を取り入れる大きな契機となりました。そのころ、蘭舟という甲府の俳人が敬雨に入門しています。甲府柳町で医師をもつて社会に貢献し、寛延年間(一七四八〜五〇)には宗匠として活躍した人物です。敬雨の来訪にいち早く反応した嵐舟は、甲府に最先端の俳風を入れることで、甲州俳壇が変動するさきがけとなったといえます。

敬雨は派閥などにとらわれない自由な傾向をもった人で、その支援をうけた中に「五色墨」連衆と呼ばれる人々がいます。获生徂来らの復古思想に影響を受けた人達で、敬雨の来訪を契機に、彼らも次々と甲州を訪れます。このように、この時期はさまざまな俳人が甲州を訪れ、また影響を及ぼしており、全国の俳壇の中でも、甲州はもっとも大きな動きをみせた場所といえます。

第四回芭蕉月待講座

「山口黒露——本格的な甲州俳壇の形成②——」

日時 10月23日(火)午後6時30分〜7時30分